

市民活動まちづくり読本」の作成過程



市民活動推進課は、まちづくり活動のより一層の拡充と市民、企業、行政等による協働を促進し、「自分たちのまちを、自分たちで創り、守る。」という市民が主体のまちづくりの推進を図ることを目的として「市民活動まちづくり読本 ―まちづくりは人生だ―」(仮称 みんなでまちづくりハンドブック)を作成しました。

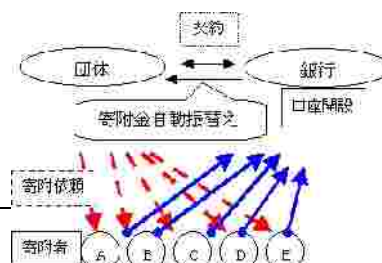
この冊子は、ボランティアやNPO、コミュニティ団体など、市民がまちづくり活動を実践する場合に役立つ、実務的なスキル(技術)等を記したもので、市民と市等が協働で作成したものです。

作成期間は、平成18年8月～平成20年9月までの間で、概ね月に1回、平日の午後6時半～8時半で作成しました。合計23回の会合を開き、市民の皆さんと市が「活動のコツ」を出しあい、協働で内容を検討しました。

ハンドブック作成第1回会合	
日時	平成18年(2006年)8月22日(火)18時30分～20時30分
会場	中区地域福祉センター5階 ボランティア研修室
出席者	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター/ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/草津まちづくりの会/東観音台連合会/広島かよこバス活用委員会/企業等社会貢献活動研究会(中国電力広島支社)/中国労働金庫/広島工業大学工学部建築工学科/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(財)広島市ひとまちネットワーク事務局/広島市まちづくり市民交流プラザ/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 広報課 企画調整部都市計画担当 情報政策課 市民活動推進課
協議次第	ワーキンググループ 初顔合わせ (1) WG(ワーキンググループ)の目標と目的の確認 (2) メンバー相互を知る (3) 次回の進め方と進行役を決める。 (4) 次回のお題と日程調整
主な発言内容	(1) WG(ワーキンググループ)の目標と目的の確認 目標 まちづくりのハンドブックを作り 広める。 平成19年9月原稿校了 12月HB(ハンドブック)完成 目的 市民が主体のまちづくりの推進 (仮称)みんなでまちづくりハンドブックのイメージ 1 わかりやすい みんなが「1度は手に取る！」 2 役に立つ みんなが「2回以上読む！」 3 売れるような(価値のある) みんなが「300円以上で買ってほしいと思う！」 「さすが広島ちゃ！」と言われるようなもの。 これらイメージの実現のために内容、名前、本の形態まで、実際にまちづくり活動をしているワーキンググループ(WG)が考え、作り 広める。 (2) メンバー相互を知る 出席者全員がそれぞれ所属している団体を紹介。 (3) 次回の進め方と進行役を決める。 各団体の活動で困っている点、苦労している点を挙げた。 (4) 次回のお題と日程調整 今回出てきた内容を踏まえて、今後どう進めていくかを話合うことになった。 人 もの 金を生みだす能力・方法 整理 その他 ワーキンググループの情報共有の方法への提案 会議の要点を書いた模造紙の写真ファイルを共有する方法を考えてほしい ワーキングは、原則、毎月第4火曜日開催とする。 1 各グループの活動の特色・ノウハウの紹介 2 持っていないノウハウ 技術のリストアップ こんなことが知りたい！ ML(メーリングリスト)に事前に流しておく 走りながら考えよう！

ハンドブック作成第2回会合

日時	平成18年(2006年)9月26日(火)18時30分~20時30分		
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室		
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/広島かよこバス活用委員会/企業等社会貢献活動研究会(事務局 まちづくり市民交流プラザ)/中国労働金庫/広島工業大学工学部建築工学科/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(財)広島市ひとまちネットワーク事務局/広島市まちづくり市民交流プラザ/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 広報課 情報政策課 建築指導課 生涯学習課 市民活動推進課		
協議次第	(1) 人 もの 金を生みだす能力について、各グループの「ここが自慢」と「ここが知りたい」を出し合って、ハンドブックに盛り込む内容イメージを膨らませる。 (2) 次回のお題と日程調整		
主な発言内容	(1) 人 もの 金を生みだす能力について、各グループの「ここが自慢」と「ここが知りたい」を出し合って、ハンドブックに盛り込む内容イメージを膨らませる。		
		ここが自慢	ここが知りたい
	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりろっこ隊	* 市民と行政の橋渡しができている	* 利害対立の調整能力 * ファシリテーション技術の向上
	ほのぼの広島会	* あえて代表者不在 各班にリーダー 全体のレベルアップ	* 資金管理の実務能力 継続性
	広島環境サポーターネットワーク	* 多様な人材、多分野へ展開 * 部会制度	* 普段活動しない方の掘り起こし * HP等の一方向での発信しかない。 * 会費は徴収しない。自己負担のない方向を検討 * 人材育成
	早稲田学区社会福祉協議会	* 地域に関係する団体をまとめて立ち上げ…町内会、子ども会も構成団体 * 地域住民みんながスタッフ * 困った時にボランティアバンク * 7つのネットワークを構成	* 中国労働金庫では、寄附システムや活動立ち上げ時の助成がある。
	草津まちづくりの会	* マスコミを利用し情報発信 * 博物館の発想	* 地域によって町内会や地区社協などの地域団体のつながり方が違う それぞれのつながり方によって運営しやすい? しにくい?
	東観音台連合会	* ネットワークを活用し情報収集活動の広がり	* 寄附にまつわる却問題点 注意点はないか? * 100円募金のプロセスもハンドブックに載せるとよいのでは? * ソフト ハードへの転機 草津まちづくり学校 * 見せるモノを活かす深い歴史をアピールする * 良い建築を守っていく方策
	広島かよこバス活用委員会	* 資金 協賛会員、企業(30社)とのタイアップ * テレビCM作成で資金を獲得	* 町内会下部組織のイベント委員会とは? * 町内会の役員が変わっても継続する下請け団体(有志、テーマ型) * お祭~宗教性との問題
	広島工業大学工学部建築工学科(海老山と遊ぼう会)	* 他団体の活動にも参加し、自分達の活動に協力を得ることができ、ネットワークができています。	* 保護者の参加を促したい * 後継者不足
【寄附を集める仕組の一つの紹介】中国労働金庫から情報提供 ● 寄附を集めたい市民活動団体が、銀行と契約し、その市民活動団体へ寄附しようとする者が銀行口座を開設し、通常の口座として使用する。 ● 例えば毎月いくら等、一定の割合を決めて寄附者の口座から自動振替で寄附を集める。			



ハンドブック作成第3回会合	
日時	平成18年(2006年)10月24日(火)18時30分～20時30分
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/広島かよこバス活用委員会/中国労働金庫/広島工業大学工学部建築工学科/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(財)広島市ひとまちネットワーク事務局/広島市まちづくり市民交流プラザ/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 情報政策課 企画調整部都市計画担当 建築指導課 生涯学習課 南区区政振興課 市民活動推進課
協議次第	第2回会合で出された「ここが自慢」と「ここが知りたい」を整理して、「何ができるのか」「何がたりないか」を明らかにする。 (1) 中国労働金庫の出席者から「自治会(町内会)」について資料説明 (2) 第2回会合で話された「ここが自慢」と「ここが知りたい」に補足して ア 3つのキーワード「リーダー」「資金」「失敗談」これに関連して各団体で補足しておくことは？ イ 活動対象別に表をまとめて見えてくること。 ウ どんな内容がハンドブックに必要なか。 (3) 次回のお題と日程調整
主な発言内容	(1) 中国労働金庫の出席者から「自治会(町内会)」について資料説明 * この資料は島根県での自治会長経験をまとめたものです。 * 阪神・淡路大震災の時、家が燃えているが、消防、住民、どうすることもできない状況がありました。私はあれを自分のところに置き換えた時、私達は どういうふうに考えよう行動すべきなのかと思いました。 * 自治会の役員を多くの人がやっていたがらないのは、自治会の財産管理や責任について全て役員の責任になってしまいうからです。ですから、まちづくりは、皆の意思で、皆で責任を持ってやるように変えていきました。 * 例えば、自治会館を使うにも何で自治会長に頭を下げて使わなければならないのか。 皆の財産は皆が使いたい時に使いましょう ということで、全戸に鍵を持っていたいただきました。 * 自治会活動には、ある意味リーダーは必要ですが、一人が全てやらなくてもいいと思っています。 * 例えば、あることをやろうと思ったら、誰がこのことに関しては得意なのかを皆に聞いて、それに関しては、Aさんが得意であれば、Aさんにリーダーをお願いします。 * リーダーは誰でもいい、その時、場所で変わっていく、そういう発想で自治会を作ってきました。 * これが本当に自分達でやりたいのか、やりたくないのかを、まず検討して、行政の支援があってもなくても、自分達が必要としていて、やらなければならないことなら、やるということです。行政の支援がなければ、自分達でできる仕組みを考えてやりましょうということです。 * こうしたことを考えながらまちづくりをしていくと、よいまちづくりになるのではないかと思います。 (2) 第2回会合で話された「ここが自慢」と「ここが知りたい」に補足して ア 3つのキーワード「リーダー」「資金」「失敗談」これに関連して各団体で補足しておくことは？ 失敗談 お祭のおみこしの取扱い方で上手くいかなかったことがあった。 宗教としてとらえるか、伝統文化としてとらえるか。 活動が地域に受け入れてもらうには時間がかかる。 ほのぼの広島会】 リーダー 相談役を設けてリーダーの代わりとしています。総会 事業計画はありません。 資金 月ごとに決算しています。 質問 一人ひとりが自主性を持って活動できるのはなぜですか？ 回答 やりたい人が現れたら活動することになっています。しんどくなったら活動をやめますし、また新たにやりたいという人が現れたら活動することになっています。アルミの空き缶を集めたときも、集めてみようという人がいて、集めてみるとこれが面白くて、30数万円集まって車椅子を寄付することができました。それからきっかけを大事にしないといけないと思います。 たまたま会員の中にあさりの畑を持っておられる方がいて、貝堀りをしようということになりました。その時、会員の中には、障害があって、貝堀りできない人がいるので、一部の者で行っていいのかということが議論になりました。最初は何かワイワイやっていて、だんだん一つの形になっていきます。それがなぜかということとはわかりません。 仕事をしながらの活動は、苦しい時もあるのですが、活動への自信がつくことで続けられています。 そうするうちに、今度はこの活動のリーダーをやってみない？ということになっていきます。リーダーを引き受けたことが、いい経験になったという人もいます。活動に参加しない時があっても、その人を責めないし、早く帰る人、は早く帰る。遅く来た人に遅れてきたとはいわない。出来る時間がある時に、出来る人が活動するということにしています。

ハンドブック作成第3回会合 つづき

主な発言内容

【早稲田学区社会福祉協議会】

リーダー メンバーの中には、持ち回りでリーダーが巡ってきた、という人もいます。
そこでリーダー養成講座に参加してもらっています。まず「まち」を知るということから始めています。

【広島環境サポーターネットワーク】

リーダー 代表 運営委員長 事務局長の 3 人で、3年ごとに交代します。役割が集中して、仕事を持っていてリーダーを引き受けると活動をするのが、厳しいなあともあります。できれば次のリーダー候補が現リーダーと一年間一緒に活動して引き継ぐという方法を考えているのですが、実際にはその実現に苦労しているところなんです。

初めの頃より、活動の幅が広がって、仕事量が増えていて、ボランティアではやっていけないくらい状態です。年々会員は増えていますが、全員活動しているという状態ではないのでそれが課題です。各部署の報告、スケジュール、ネットワーク全体で引き受ける事業について役割分担などを話し合っています。

部会同士の連携の例としては、河川部会（水生生物）と森林部会（川の水を作っている）が連携して小学校の環境学習会の授業を作るという事業があります。

【広島かよこバス活用委員会】

部会ごとに活動しています。「会長」「イコール」「リーダー」という感じではありません。その時の流れによって役割分担がいつのまにかできています。楽しくできればよいという姿勢で活動しています。

質問 楽しいのは「なぜ」なのでしょう？

回答 地域団体も参加していますし、大学からの参加、「おやじ活性化委員会」からの参加、と様々な違うグループからの参加があるから楽しいのではないのでしょうか。

質問 自分この「ハンドブック」にそういうところを盛り込めればよいのではないかと思います。地域のまちづくりに、地域外の方が関心を持たれる秘訣みたいなものは何でしょうか。

回答 三篠公民館の担当者が、活動の火をつけて、地域もそれに共鳴して活性化していききました。役割分担は選挙して分担を決めるのではなくて、それぞれがもっている専門のノウハウを生かすような形で決まっていきました。今まで話しをしたことのなかった他の地域団体の方とも、かよこバスを通じて話をするようになりました。地域外から参加した人達から、地域の者が刺激されて、活動が活性化しました。トップダウンではなくて、自分達で「何かこれをしようや」と（ボトムアップ）活動したから楽しいのだと思います。

それまでは、行政の方からいろんなことを町内会に頼まれて、町内会の人達はそういうことに疲れていましたが、かよこバスの活動を通じて少し変わってきました。かよこ関連の行事をして、とても疲れるのだけれども何か「やった」という喜びの方が大きいのです。

イ 活動対象別に表をまとめて見えてくること

「ここが自慢」と「ここが知りたい」を活動対象別に表「ワーキンググループの活動対象別位置付け試案」にまとめてみました。ここから、見えてくること。自ずと守備範囲「何ができて」「何がやりにくい」かわかるかと思います。

質問 広島工業大学の研究室では、海老山と遊ぶ会としてテーマ型のソフトに分類していますが、この他に研究室として関連のある分野はどんなところがありますか？

回答 自分の研究はハード面の住民主体のまちづくり、商店街の活性化とか、地区計画、研究室では海老山と遊ぶ会や草津まちづくりの会とかに関わっています。それから、ハンドブックの内容としては、ハードとソフトのまちづくりを同じにあつかって記述することは難しいと思います。

ウ どんな内容がハンドブックに必要なか。

何から何まで入れるというわけにはいかなないので、内容の濃さと特徴が必要。これから、もっと議論していく。広島が独自にハンドブックを作る意義は？ 他都市にないものを！

○ 熟度の高い内容を盛り込む

○ 合議制を脱却し新しい意見の求め方

楽しい議論の仕方

日本の昔ながらの会合 ノウハウ 「そういうことで・・・」

分科会形式の活用、心地良い会議のやり方

確認 そもそもこのハンドブックのニーズはどこから出てきた？

市が言い出した・・・けど潜在的なニーズは各所にある。同じ課題がいつまでも解決されずに残っている。

情報交流の手段 まちづくりの活性化へ

○ 魅力的な活動の事例集 具体例 テーマの数は？少なくとも20～30 市外の活動もOK！

○ 飛びつきやすさ 興味のあるテーマ、ジャンルをピックアップできる

○ 軽い気持ちで手にとれるもの 導入部分

○ 情報の取捨選択をしたくない

○ 一方通行ではなく開かれた方法でつくる方法はないのか？長期プランで作れないか。

SNSなど

役立つ情報をうまく提供できるしくみづくりが必要

市 本という形態には、こだわらない。

この検討過程を中間報告という形で、メンバー以外からの意見も求めて、幅広くノウハウを集めたい。

今回出たキーワードを更に深く議論していくと、ハンドブックの構成が見えてくるのではないだろうか。構成が決まれば、分担ごとに部会のような形式で作業していく。

ハンドブック作成第4回会合	
日時	平成18年(2006年)11月28日(火)18時30分～20時30分
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/中国労働金庫/広島工業大学工学部建築工学科/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(財)広島市ひとまちネットワーク/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 広報課/建築指導課/南区市民部市政振興課/市民活動推進課
協議次第	ハンドブックの項目と担当(試案)を基に構成や分担を考える (1) ハンドブックの項目と担当(試案)の表の説明 (2) 項目と担当(試案)の表の「項目」と「詳細」の構成や内容について意見交換 ア 概要として「まちづくりとは?」という項目は必要か? イ 「活動のコツ」という項目について、ここが抜けているとか、ここに留意した方がいいという意見は? (3) 次回の日程
ポイント	* 概要として「まちづくりとは?」という項目は、まちづくり活動への動機付け(気運を盛り上げる)として重要であり必要である。「まちづくりは人生である」 * 主体的にまちづくりに関わる中で、役立つようなハンドブックにしたい。 * 概論部分のたたき台が必要 次回会合までには、概要を作ってみる。
主な発言内容	(1) 前回までの議論でハンドブックに盛り込みたいものを整理して表にしました。 各団体から出された「何ができるか」(*の印)「何が足りないか」(?の印)をハンドブックの項目ごとに整理しなおし、関連する団体名を項目ごとに入れた表にしています。また、支援についても項目ごとに関連あるものを記入しました。 (2) 項目と担当(試案)の表の「項目」と「詳細」の構成や内容について意見交換 ア 概要として「まちづくりとは?」という項目は必要か? ・「まちづくり」って何だろうという人もいると思うので必要だと思います。 ・現実には、2割の人しかまちづくりに積極的でないと思います。 ▼ハンドブックは、ハウツー本なのか、動機付け(気運を盛り上げる)の本なのか。 まちづくりは、ケース・バイ・ケースでまちづくりにハウツーはないと思います。 この項目には、インパクトがある表現などが必要だと思います。 キーワード <u>まちづくりは人生である</u> ・ここでしっかりと議論をしていく必要があります。そのために、概要部分のたたき台が必要だと思うので、そのたたき台を作る役割分担して作業をしてもらいたいです。 イ 「活動のコツ」という項目について、ここが抜けているとか、ここに留意した方がいいという意見は? ・人、物、金は密接にリンクしたものだと思います。それぞれ別個に語るようなものではないと思います。 ・まとめて語ってもいいし、中心的に「人」について語って、それに物・金が付随してもいいと思います。 ▼ボランティアマネジメント ・ボランティアにきた人が活動に満足して、次の活動にも参加したいと思ってもらえるようにマネジメントする方法があります。そういう項目も必要なのではないのでしょうか。 ・「活動のコツ」という項目の最初に活動全体を見渡すような説明があって、個別の人、物、金を記述するという方法もあります。 ・人のマネジメントとか、協働とかいうことも含め、活動のコツを総括するような部分が必要です。 ・項目の「まちづくりとは?」のところは、まちづくりをなぜするか、どうやってするか、という概論だと思います。その後いきなり「活動のコツ」を挙げていくというのもいいですが、概論とコツの間に、何かいるのではないのでしょうか。そうしないと「人、物、金」は何のために必要なのかということがわかりにくいと思います。

・「活動のコツ」は技法（方法論）の話で、一つの活動の中には、活動全体をコーディネートする、マネジメントする、「人、物、金」といういろんな要素があるのだから、それらを含めて人を惹きつけるような活動について語る必要があります。

・「まちづくりとは？」と「活動のコツ」の間に、全体を見渡せるテーマとか、全体をマネジメントすることとかを入れて、概要「まちづくりとは？」と二本立てでたたき台を作りたいと思います。

・活動のコツが縦系ならば、これらを横につなぐもの、あるいはもっと重要なのがテーマやマネジメントなのだと思います。

▼ターゲットは誰か？

・活動をしていて悩んでいる方とか、意欲はあるけれども・・・といった方をターゲットにしておけば、その他の段階にある人にも対応できる内容になるのではないかと思います。

・活動の段階というよりは、活動に対する問題点ということであまりまとめられるとよいですね。

・活動を始めて順調に進んでいる時はよいのですが、うまくいかない、かなり活動の勢いが落ち込んでいるようなときに、ハンドブックを読みたいという気持ちになると思います。このハンドブックはそういう時に力を与えてくれるような本になるとよいと思います。

・今の時点では、はっきりとこの段階にある人と限定してかからなくても、おぼろげながらこんな人に読んでもらえたら・・・というくらいで作り始めてもよいのではないかと思います。それよりも問題なのは、本の構成ではないかと思います。

概要のあとすぐに「活動のコツ」の方法とか手法、スキルにいくのはいかがなものか。全体のテーマをどうするとか、まちづくり活動全体を示すような部分が必要ではないか。

▼ここで、次の二つの事を皆さんに聞いてみたいです。

あなたにとってまちづくりとは？と 今回のまちづくりハンドブックをどんなものにしたいですか？ をそれぞれ書いてみてください。

・ふせんを見ても、皆さんの思いが違う。こうなればならない、という書き方ではなくて、読んだ人にとって何かのヒントになるそういう本であればよいのかなと思います。

・このの会合では、いろいろな取り組みがあったり考えがあったりするのを、この場で正しいとか、間違っているとか、決める場ではなくて、この場で様々な考えや事例を出して、ハンドブックは、活動の取り組み方などは色々あることを知ってもらい活動全体を把握していく上でのヒントにしてもらう本になるのだと思います。

・まちづくりは、それをしようとする人が主体的になってやることであって、ハンドブックは、その時のヒントになればいいというものだと思います。そういった意味では、「何ができるのか」「何が足りないか」という項目が沢山出てきているので、書くべきものなどはある程度そろってきているのではないかと考えています。

・自分たちの思いを込めるということを最大限やれば、きっと相手に響くものがでてくるのではないかと思います。

・まちづくりのイメージはいろいろあると思います。まちづくりを考えて行動する人のためのハンドブックでよいのではないのでしょうか。自分たちのまちとか地域とかをどうしていきたいのか、そういうことを考える人は、問題意識をもっているのだから、そういう人たちの活動の道しるべとなるようなものがよいと思います。

ハンドブック作成第5回会合	
日時	平成19年(2007年)1月23日(火)18時30分～20時30分
会場	中区地域福祉センター 5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(財)広島市ひとまちネットワーク/(社)広島市社会福祉協議会/広島市 広報課 建築指導課 南区市民部市政振興課 市民活動推進課
協議次第	編集方針を決める (1) 第4回の振り返りと作業班での検討経過報告 (2) 編集方針を決める
ポイント	* 編集方針として、次のような方向性を持って進めることにする。 (編集していく過程で見直す必要があれば、またその時点でも見直していく) ○ 本の組み立て (まちづくりの専門誌) + (実用情報雑誌) のようなイメージで作る ○ 対象 まちづくりに関心のある人 活動に関わっている人 一人ではない、人とのつながり(組織) ○ 内容 いろんな活動がまちづくりにつながるを感じる、考える やさしいタイトル表現 喜怒哀楽 人、活動が登場するもの(ワーキンググループは全て登場する) * 今回の会合での議論をふまえて、目次だてを修正する。 * 取材先候補をそれぞれ挙げる(メーリングリストで対応)
主な発言内容	第4回会合をふまえて、作業班で検討した経過は次のようなものでした。 ● 右図の赤丸のあたりを本のイメージでどうか？ ● 人、活動が加わったかたちで、まちづくりは人生である、まちづくりは色々あるということ、例えば「手弁当のまちづくり」のような活動を料理に例えて編集していくのはどうでしょうか。 ● 「まちづくりをしよう」と思って活動を始めるというよりも、活動していることが、実はまちづくりにつながっていたという人のほうが多いと思うので、あまり最初から「まちづくり」を強調しすぎないほうがよいと思います。 ● これから活動を始めようとする人に、面白い、タメになるとしてもらおうような紙面づくりが必要です。 ● ターゲットは、(まちづくり活動の)情報を求める人に置いたほうがよいと思います。 ● 喜怒哀楽というキーワードで活動や人を紹介します。 ● 一人でボランティア活動をしているような場合は、このハンドブックで取り上げようとしているまちづくりとはならないのでしょうか。 * 編集方針 活動に関わっている人 人、活動が登場するもの(ワーキンググループは全て登場する) ● 関心ある人が手にとって読んでもらえるような目次のタイトルの考えましょう。

ハンドブック作成第 6 回会合	
日時	平成 19 年 (2007 年) 2 月 27 日 (火) 18 時 30 分 ~ 20 時 30 分
会場	中区地域福祉センター 5 階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/広島かよこバス活用委員会/(社)日本都市計画学会 中国四国支部/(財)広島市ひとまちネットワーク/広島市 広報課 生涯学習課 市民活動推進課
協議次第	(1) 目次イメージについて、この案で進めて行ってよいか確認する。 (2) グラビア 喜怒哀楽 の取材先を複数挙げてみて、取材先を決める。 (3) ハンドブック作成に向けて、担当班に分かれて打合せを始める。
主な内容	* 1 目次イメージは、グラビアページ、手弁当のまちづくり、まちづくりの道具箱、資料編といった構成で進めていくことにしました。(編集していく過程で見直す必要があれば、またその時点でも見直していきましょう) * 2 グラビアの取材先(案)を絞り込みました。 喜 イベントなどを開催する時、参加する人々自らが喜ぶことを趣旨の一つにしている団体 怒 里山が荒れていることへの怒りを抱え活動している団体 哀 企業等からの支援がなくなり、活動の一部を中止した団体 楽 まちの中の良いところを楽しく表彰する活動をしている団体 * 3 ハンドブック作成に向けて、担当班に分かれて打合せを始めました。 グラビア班 手弁当班 道具箱班 * 4 各班それぞれ次回の予定、次回までに作業することなどを話し合いました。 グラビア班 :6月の初めに概要を決める。他の取材先も考える。 次回は、スケジュール、ヒアリングシート、イメージ、取材先のデータなどについて話し合う 手弁当班 次回までにワーキンググループ以外の取材先団体を考える。 取材シートに自分達の団体を例に試験的に記入してみる。 イラストが描ける人を探してくる。 道具箱班 道具箱には、ツールと手法を盛り込もう。 市民交流プラザの資料などを参考に基礎的な手法を学ぼう。 次回は、どんなツール、手法が知りたいか、項目出しをしましょう。

ハンドブック作成第7回会合	
日時	平成19年(2007年)3月27日(火)18時30分～20時30分
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 市民活動推進課
協議次第	【全体】(全体での話し合い)前回の振り返りと班分け担当班に分かれて打合せ。 【各班】(各班に分かれて話し合い)前回話し合ったことの続きを話し合う。 取材質問シートに対する意見を出し合う。 【全体】前半の打合せ内容を全体で共有 取材質問シートなどへの意見出し 【各班】担当班に分かれて打合せ。 前半をふまえ、各班で話し合う 各班の大まかなスケジュールを決める 次回までに行う作業、取材等を決める 【全体】後半の打合せ内容を全体で共有
主な内容	【全体】取材シートはグラビア班手弁当班同じものにしよう 取材は複数人で行こう。グラビア担当+市+α 取材意図を充分伝える資料を市民活動推進課が作る(A4、1枚の説明)。 【グラビア班】大まかな取材スケジュールを決めました。 【手弁当班】グラビア班と一緒に取材質問シートを決めました。 【道具箱班】道具箱の中は、「道具の使用法、修理、コラム、マネージメント、道具発明」といったキーワードを元に作っていくことになりました。

ハンドブック作成第8回会合	
日時	平成19年(2007年)4月24日(火)18時30分～20時30分
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/東観音台連合会/中国労働金庫/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 企画調整部都市計画担当 建築指導課 南区区政振興課 市民活動推進課
協議次第	【全体】前回の振り返りと班分け 【各班】担当班に分かれて打合せ。 前回話し合ったことの続きを話し合う 各資料(案)に対する意見を出し合う 【全体】前半の打合せ内容を全体で共有 【各班】担当班に分かれて打合せ。 前半をふまえ、各班で話し合う 次回までに行う作業、取材等を決める 【全体】後半の打合せ内容を全体で共有
主な発言内容	【全体】取材は、グラビア班手弁当班を中心に行くが、道具箱班も興味があったら参加してもらう。 【グラビア班・手弁当班合同】グラビアは、「人」に焦点を当てた取材。喜怒哀楽のキーワードで物語のある内容に。手弁当は、「活動」に焦点を当てた取材。活動を弁当になぞらえて表現 【道具箱班】「〇〇する時に必要な」ということで「〇〇する時」にどんなキーワードがあるか項目を出してみました。

ハンドブック作成第 9 回会合	
日時	平成 19 年 (2007 年) 5 月 22 日 (火) 18:30 ~ 20:30
会場	中区地域福祉センター 5 階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 市民活動推進課
協議次第	【全体】前回の振り返りと班分け 各 班 担当班に分かれて打合せ。 前回話し合ったことの続きを話し合う 各資料 (案) に対する意見を出し合う 【全体】前半の打合せ内容を全体で共有 各資料 (案) などへの意見出し 上下町取材について 各 班 担当班に分かれて打合せ。 前半をふまえ、各班で話し合う 次回までに行う作業、取材等を決める 【全体】後半の打合せ内容を全体で共有
主な内容	〔グラビア班・手弁当班合同〕 次回会合までに、まずワーキングメンバーの活動記事を手弁当になぞらえて原稿作成してみる。原稿の量は、A4 の 2 ページ。文字数に制限はないが、2 ページのうち半分はイラストか写真になるイメージで作成してみる。 〔道具箱班〕 市民活動を行っていくうえでの具体的な悩みをマトリックス表に整理してみました。『市民活動の 7 つ DO(どう)具(く)』と題して、これらの悩みを解決する道具を紹介するという表現はどうかという意見がでました。 次回までに個別の活動の具体的な悩みと『市民活動の 7 つ DO(どう)具(く)』の関連を整理してみて紙面構成を考えることにしました。

ハンドブック作成第 10 回会合	
日時	平成 19 年 (2007 年) 6 月 26 日 (火) 18:30 ~ 20:30
会場	中区地域福祉センター 5 階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 市民活動推進課
協議次第	【全体】前回の振り返りと取材報告 各 班 担当班に分かれて打合せ。 前回話し合ったことの続きを話し合う 各資料 (案) に対する意見を出し合う 次回までに行う作業、取材等を決める 【全体】打合せ内容を全体で共有
主な内容	〔グラビア班・手弁当班合同〕取材に行った報告と、取材原稿への意見を出し合いました。 〔道具箱班〕道具箱は、道具箱マトリックスをもっと深めることになりました。 道具箱編集のため、それぞれ活動上の悩みを出して、次にそれぞれの悩みに対する解決案を挙げてみることになりました。

ハンドブック作成第11回会合	
日時	平成19年7月24日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社)広島市社会福祉協議会/広島市 研修センター 市民活動推進課
協議次第	【全体】前回の振り返りと取材報告 各班 担当班に分かれて打合せ。 前回話し合ったことの続きを話し合う 各資料(案)に対する意見を出し合う 次回までに行う作業、取材等を決める 【全体】打合せ内容を全体で共有
主な内容	【グラビア班 手弁当班合同】 それぞれの案で書かれた手弁当の原稿の構成について検討しました。 【道具箱班】 道具箱マトリックスを元に、それを「道具」に集約する方向に行くか、あるいは、あえてまとめることをせずにQ&A方式で活動のヒントをそのまま提示していくのか、議論となりました。

ハンドブック作成第12回会合	
日時	平成19年8月28日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社)広島市社会福祉協議会/CAQ(セアック)広島市 研修センター 市民活動推進課
協議次第	● 前回の振り返り ○ 取材報告 ○ 担当班に分かれて打合せ。 ● 前回話し合ったことの続きを話し合う ● 前半の打合せ内容を全体で共有 ● 道具箱へ入れる材料を集めるためのワーキング ● グループに分かれて悩みに対する解決ヒントを出しあう ● 全体で情報共有 ● まとめ
主な内容	【グラビア班 手弁当班合同】 手弁当のページの構成を決めました。 【道具箱班】 道具箱へ入れる材料を集めるためのワーキングを行いました。 活動の悩みに対する解決へのヒントを出し合いました。

ハンドブック作成第13回会合	
日時	平成19年(2007年)9月25日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ほのぼの広島会/早稲田学区社会福祉協議会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/広島市 市民活動推進課
協議次第	○ 前回の振り返り ○ 手弁当の取材先を決める ○ 道具箱の頁のまとめ方を話し合う
主な内容	[グラビア班・手弁当班合同] 手弁当のページの構成を決めました。 道具箱班: 道具箱へ入れる材料を集めるためのワーキングを行いました。 活動の悩みに対する解決へのヒントを出し合いました。

ハンドブック作成第14回会合	
日時	平成19年10月23日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/東観音台連合会/CAQ/(社)日本都市計画学会中国四国支部/広島市 市民活動推進課
協議次第	○ 前回の振り返り ○ 手弁当に掲載する団体の弁当イメージを考える ○ 道具箱の頁のまとめ方を話し合う
主な内容	[グラビア班・手弁当班合同] ・手弁当に掲載予定の団体の弁当イメージを考えました。 ・次回会合(11月27日)を締め切り日として原稿を作成することにしました。 道具箱班: ・「○○のひきだし」の表現案は、読者に受け入れやすいとの意見により、これを採用することにしました。 ・上記構成方針により、次回の会議に検討する資料を作成することにしました。 会議の出席者が少ないので、積極的に呼びかけることにしました。

ハンドブック作成第15回会合	
日時	平成19年11月27日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 南区区政振興課 市民活動推進課
協議次第	○ 前回の振り返り ○ 手弁当の原稿案について意見をだす ○ 道具箱のまとめ方を話し合う
主な内容	[グラビア班・手弁当班合同] 提出された原稿案について意見を出し合いました。 手弁当の編集全体について次のような意見が出されました。 ・手弁当の見開き頁に団体プロフィールを入れるようにしてはどうか。 ・弁当になぞらえていることをもっとわかりやすく、面白く工夫したらどうか。 [道具箱班] ・内容は、活動上の実体験に基づいたものを原則とする。 ・最終的な編集イメージが固まりつつある。 ・これまで多くの活動上のヒントや実例が出された。 ・今後はそれを選択するとともに足りない部分を更に肉付けする段階に入る。

ハンドブック作成第16回会合	
日時	平成19年12月18日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 ボランティア研修室
出席者	ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 市民活動推進課
協議次第	○ 前回の振り返り ○ 手弁当の原稿案について意見をだす ○ 道具箱のまとめ方を話し合う
主な内容	[グラビア班・手弁当班合同] ・これまで作られた原稿案について、更に検討を行いました。 ・まだ作られていない原稿について、次回会合(1/22)の一週間前(1/15)までにメーリングリストに掲載してもらうように再度、原稿担当者に連絡することになりました。 [道具箱班] ・現案について意見交換を行いました。 ・現案に盛り込まれているヒント等について、各自で追加、修正等を行い、1/11までに提出することになりました。

ハンドブック作成第17回会合	
日時	平成19年1月22日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/草津まちづくりの会/早稲田学区社会福祉協議会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 市民活動推進課
協議次第	○ 前回の振り返り ○ 手弁当のレイアウトや原稿案について検討 ○ 道具箱のまとめ方を話し合う
主な内容	[グラビア班・手弁当班合同] 手弁当ページのレイアウトについて、検討を行いました。 新たに提出された原稿案について、検討を行いました。 ・まだ作られていない原稿について、次回2月15日をめどに メーリングリストに掲載してもらうように再度、原稿担当者に連絡することにしました。 [道具箱班] 道具箱ページのまとめ方を決めました。 今後の原稿作成のスケジュールと大まかな分担を決めました。

ハンドブック作成第18回会合	
日時	平成20年2月26日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 市民活動推進課
協議次第	○ 前回の振り返り ○ 手弁当のレイアウトや原稿案について検討 ○ 道具箱のまとめ方を話し合う
主な内容	ハンドブック完成までのスケジュールを確認しました。 [グラビア班・手弁当班合同] 手弁当ページのイラストを描いてくださる方が見つかったことを報告しました。 手弁当ページのレイアウトについて、検討を行いました。 [道具箱班] 道具箱の本文部分はもう少し時間がかかるので、 次回までに引き続き作成していくことにし、今回は、参考資料の項目について検討しました。

ハンドブック作成第19回会合	
日時	平成20年3月25日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 南区区政振興課 市民活動推進課
協議次第	○前回の振り返り ○手弁当のレイアウトや原稿案について検討 ○道具箱のまとめ方を話し合う
主な発言内容	ハンドブック完成までに、あと数回会合を続けることにしました。 手弁当ページのイラストとレイアウト例を見てもらいました。 [グラビア班 手弁当班合同] 手弁当ページでまだ、イメージが出来ていない団体について検討しました。 [道具箱班] 前回に引き続き、道具箱の本文部分、参考資料について検討しました。 また、前文、目次部分について、タイトルや構成などについて検討しました。

ハンドブック作成第20回会合	
日時	平成20年4月22日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 大会議室3
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(財)広島市ひとまちネットワーク/まちづくり市民交流プラザ/(社福)広島市社会福祉協議会/広島市 広報課 市民活動推進課
協議次第	○前回の振り返り ○手弁当のレイアウトや原稿案について検討 ○道具箱の原稿案について検討
主な内容	まちづくり市民交流プラザで実施する「まちづくりトーク」(5/17(土))について説明し、ワーキングメンバーの団体にも協力していただくことになりました。 [グラビア班 手弁当班合同] 手弁当ページを校正しました。 手弁当ページの最初にある一覧表について》 ・イラスト入り一覧をつけて、お弁当に意図だけでなく 簡単な活動内容の情報を入れて読みやすくする。 全体構成について》 ・グラビア 手弁当 道具箱に加えて、一団体取り上げて活動紹介した付録漫画(10頁くらい?)を入れてはどうか。 [付録について] まちづくりの辞書(言葉の説明を入れたもの)を作ってはどうか 道具箱班で「知っ得情報」として編集 [道具箱班] 本文部分についてたたき台(修正案)をもとに意見交換をしました。 「元氣」 まずはやってみる どういう風にやってみるかのタネがない 遊び心は活性化の～ 例えばどんな仕掛けがあるのか。 読者の視点に立ち具体的なことを書く 何ができるかを考える 自発性をどうやってださせるかがいる。 「合意形成」 合意形成という言葉は役所言葉(わかりにくい)。合意だけではだめか。 順番的には企画の次のほうがよいのでは。

～まちづくり活動お役立ち情報交換市～



知って得する「まちづくり市民交流プラザ」の活用情報も紹介します！

- 日 時 ● 平成20年(2008年)5月17日(土) 13:30~15:30
● 会 場 ● まちづくり市民交流プラザ 北棟6階34号(7299)号
● 対 象 ● まちづくり活動に熱心のある方ならどなたでも (定員50名) 無料

●情報交換のための話題提供団体●

姓名

ヒット企画を生み出す「飲みながら読書」という「手」

広島環境サポーターネットワーク

段所と“うま〜く”付き合うという

皇橋田学区社会福祉協議会

一人が役目をたくさんこなして厭いでしる

※ 詳しくは裏へ

- コーディネーター● (社) 日本都市計画学会中国四国支部 山

主催 ● まちづくり市民交流フェスタ実行委員会、広島市市民活動推進課
 問合せ ● (財)広島市ひと・まちネットワーク まちづくり市民交流プラザ
 〒733-0036 広島市中区森町8-36 TEL 082-545-3911 FAX 082-545-3883

ヒット企画を生み出す「飲みながら読書」という「三



私たちの「手」

【轉載自台灣省會】

平成15年、前掲の「子ども会」が解散、町内会復興の1年が迎えた。我々への意気投から、町内会活動再開費を中心とする案が出た。町内会活動のサポート、若しくは地域課題の解決を支援するため、平成17年、青森県首長会として「東蔵台台長会合」が発足した。

「秋もながら会館（ブリーチストーン・メジダ会館）で、国立三日月中学校生徒の「みこ、相沢」への参加。夏の年度が参加する児童カウントダウン等のヒット企画を遂行し、地域の活性化、交流促進、健康増進の推進等、まわりの活動と繋ぎ、現在、地域団体の結成や研究会を強く（ビジネス研究会）も発展させている。

投函と「うま〜」使えぬという「羊」

広島市「広島地球ウォッチングクラブ」専業の企画・運営を協働で実施しています。事業のある前の年から担当課と企画会議を重ねて、千歳観察や里山観察、バードウォッチングなどを企画し、体験を通して環境学習の運営を行っています。

協働することで、自分達の活動目的である「環境保全」に向けて、効果的に活動成果を上げることができています。



「平」

【企業環境サポートネットワーク】

[illegible]

「人が役目をたくさん抱えて思わなくなってしまわない」という「三



龍虎豹の「手」

特定の人が、高齢者、子育て、コミュニティーなどの多くの分野に関わって疲れてしまうのではなく、各団体からいろいろな人がネットワークに入り、役割分担し、ある程度独立性を持つ活動しています。

【華東國學及社會傳播協會】

早稲田大学社会経済学研究会は、平成17年(2005年)に「日本看護学会看護実践研究会」から分離し、会計内独立した法人、地域に関わる種別型、地域福祉に学ぶまでの学術発展、大学人となりを模索する団体として創設されました。翌月の第1回理事会で互いの役割分担を決定して行っています。

各種団体の活動は従来の研究会や実行アンケート、関係者ワークショップを行い、その中から出てきた問題意識や疑問を、分野別ワークショップ(高齢者、障害者、子育て、ニート、防犯・安全・防災、福祉、犯罪・犯罪学・法社会学)で検討し、そのためのネットワークを築きあげ、討論・実践活動していくことになりました。

【プログラム】

- 13:00 開会
13:45 新組織体団体の事例紹介と問題提起（各団体10分）
14:30 情報交流タイム ～発表を基に自由に設立しつづける等の情報交流を参加者全員で行います～
15:10 総ての事をする「まちづくり市民交流プラザ」の活用情報
16:30 閉会

ハンドブック作成第21回会合	
日時	平成20年5月27日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 ボランティア研修室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/(社)広島市社会福祉協議会/広島市 広報課 市民活動推進課
協議次第	1 前回の振り返り 2 5月17日「まちづくりトーク」の報告 3 検討点1 目次 ここで書いておくほうがよいことは他にないか？ 4 検討点2 グラビア 手弁当について、気づきは？ 5 検討点3 道具箱の表現(案)について気づきは？ 6 検討点4 協働の書き方 7 検討点5 参考 知っとく情報 8 検討点6 全体のバランスなど 9 次回までの作業確認
主な内容	ハンドブック全体の原稿案を見ながら全員で話し合いました。 検討点1 グラビア 手弁当の団体を選んだ理由、経緯等を書く 検討点2 グラビアと手弁当の間に一つ頁がいるのでは 手弁当の頁 グループ名がわかりにくい 目次あるいは手弁当の最初の頁に、団体の活動地域地図を作ってはどうか。 検討点4 協働の実例があるなら道具箱にあってもよい。 検討点5 道具箱との関連付けをする 道具箱の項目の並びについて再検討 検討点6 索引を作ったほうがよい

ハンドブック作成第22回会合	
日時	平成20年6月24日(火)18:30~20:30
会場	中区地域福祉センター5階 ボランティア研修室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/広島市市民活動推進課
協議次第	1 前回の振り返り 2 全体構成について 3 お悩み相談室(道具箱)頁7~14の検討 4 その他
主な内容	ハンドブック全体の原稿案を見ながら全員で話し合いました。 ○ グラビア頁と弁当頁の最後にコーナーの説明が入るという構成は、これでよいと思うが、文章がコーナー最初に出てくるものとして書かれているので、この構成に合うように文章を直す。 ○ お悩み相談室7 ・人脈や人材を残し、新たな人材を供給するという表現がよくわからない。 ・行政職員を巻き込むという項目は必要か ○ お悩み相談室8・9 9のお悩みの問いの表現をもう少し考える。 ○ お悩み相談室10・11 総会、会議の言葉の使い分けを明確にすべき 言葉の使い分けというよりも、項目の並び替えを工夫すべき 意見を踏まえて再修正 ○ お悩み相談室(道具箱)頁全体 「知って得情報」手弁当へのリンクはアイコンを作って、目立たせる。 ○ 編集後記を作る

ハンドブック作成第23回会合	
日時	平成20年9月30日(火)18:30~20:30
会場	市役所 14階 第3会議室
出席者	ひろしままちづくりファシリテーターズ・まちづくりくろっこ隊/ほのぼの広島会/広島環境サポーターネットワーク/早稲田学区社会福祉協議会/草津まちづくりの会/東観音台連合会/(社)日本都市計画学会中国四国支部/広島市 市民活動推進課
協議次第	1 前回の振り返り * 2~4それぞれについて、最終確認をする。 2 お悩み相談室(道具箱) 3 知っ得情報 4 全体の構成 5 その他
主な内容	ハンドブックの原稿案について最終確認しました。 今後、市民活動推進課が校正し、冊子印刷にとりかかることになりました。